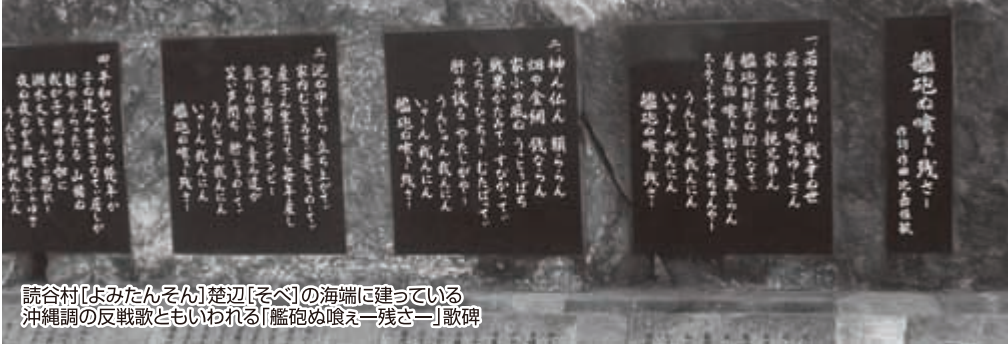


初めての取り組み／連合鳥取独自の「平和に関する現地学習会」で学ぶ



読谷村[よみたんそん]楚辺[そべ]の海端に建っている
沖縄調の反戦歌ともいわれる「艦砲め喰えー残さー」歌碑

5月19日(木)から21日(土)、現地に出向き、実態を知ることとを目的に、連合鳥取独自の取り組みとして初めて企画した「平和に関する現地学習会」を実施しました。本川博孝会長、西村裕生国民運動局長をはじめとする8人の役員が参加し、改めて「沖縄の平和問題」について深く学習しました。

「艦砲め喰えー残さー」
作詞・作曲 比嘉恒敏 訳詞・朝比呂志

若さる時ねー 戦争ぬ世

(ワカサルトウチネー イクサヌユ)

若さる花ん 咲ちゆーさん

(ワカサルハナン サチユーサン)

家ん元祖ん 親兄弟ん

(ヤングワンソン ウヤチヨウテン)

艦砲射撃めくになてい

(カンポウシャゲキヌマトウウチネチ)

着る物 喰えー物むる無ーらん

(チルムン クエムンムルネーラン)

ステイチャー喰えい暮ちやんや

(ステイチャーカイクイラチャヤ)

うんじゅん我んにん

(ウンジュンワンニン)

いやーん我んにん

(イヤーンワンニン)

艦砲め喰えー残さー

(カンポウメクエーヌクサ)

(訳詞)

若い時分には戦争ばかり

若い花も咲かずじま

家屋敷 ご先祖 肉親

艦砲射撃めくになつてしま

衣食 何もかも失

蘇鉄を糧にして暮らしを立てたもの

あんたも わたしも

おまえも おれも

艦砲め喰えー残さー

【1日目】

宜野湾市役所を訪問し、基地政策部基地渉外課の佐久川さんに概要説明をしていただきました。宜野湾市と普天間基地一帯が見渡せる市役所屋上より、①基地の概要、②米軍機による騒音問題や事故、③米軍関係者による犯罪問題など、宜野湾市の実情を学びました。普天間飛行場における航空機騒音規制措置「に関する日米合意により、米軍機の飛行について「進入及び出発経路を含む飛行場の場周経路は、できる限り学校、病院を含む人口稠密地域上空を避ける」と説明を受けている最中に、1機のオスプレイが普天間基地より離陸、私たちの頭上低いところを通過していく光景を目にしました。宜野湾市役所やその周辺にも保育園、商業施設等があり、市民が多く暮らしているにもかかわらず、合意を無視して頭上を飛んでいく米軍機に対し、非常に強い恐怖と憤りを感じました。

その後、連合沖縄を訪問し、大城紀夫会長、高良恵一事務局長より沖縄県の基地とそれに関する労働問題等について、マスコミでは報道されていなかった現状を教えてくださいました。連合沖縄の構成人員のうち2番目に多いのが、米軍基地関連施設の仕事を従事する方々「全駐労」で、人権問題やセクハラ、不当な賃金カット等、日本人労働者への人権問題に対し、日々闘っておられることを知り、単

純な労使関係ではなく日本政府を巻き込んだ問題の複雑さを感じました。

【2日目】

連合沖縄・高良事務局長の案内で、住民を巻き込み多くの戦死者を出した中部戦線の歴史の地を見渡すことができた嘉数高台をスタートとして、「名護市辺野古のキャンピングシュラブ」、「普天間基地代替予定地を見渡せる瀬嵩の浜」、「嘉手納基地」、「読谷村チビチリガマ」と、沖縄戦の歴史から現在までを分かりやすく説明していただき視察することができました。

その後、元読谷村副村長の池原栄順さんの自宅を訪問し、「トリー基地」内の「トリービーチ」を案内していただきました。村民の中にはフェンスの向こう側、米軍基地内に耕作地や墓地があり、自分の家の墓参りに行くのも申請し許可が必要な方もおられると聞きました。そして読谷村職労のみなさんにも駆けつけさせていただき交流も行いました。

【まとめ】

今回の平和学習は、戦争の歴史と、今も基地と隣り合わせで生活をしながら「オール沖縄」として日々闘っておられる方々の生の声を聞くことができ、とても貴重な経験となりました。戦後70年以上経った今なお残る基地問題について、私たち一人ひとりが研鑽を重ね「平和」について改めて考えていかねばなりません。

Photo News

Pick Up!

宜野湾市役所屋上にて

 頭上を通過するオスプレイ


連合沖縄との意見交換


戦跡／嘉数の高台より

 街のど真ん中にある 普天間基地

 トーチカの 残骸


辺野古キャンプシュワブ
 辺野古に向かう途中にも 抗議行動をする人たちがいた



嘉手納 基地

 道路を挟んだ「道の駅」屋上から見た基地の様子と 「道の駅」の中にある資料館を見学(右)


トリエ基地内 トリエビーチ

 基本的に米軍人の専用施設

 まるでアメリカ西海岸のビーチのよう

**—友好交流協定から16年—
 交流の継続と発展に向け 中国・吉林省総工会訪日**

連合鳥取は、国際化時代における労働分野の視野・見識を拡げる立場から、2000年より中国・吉林省総工会と友好協定を結び相互交流を行っています。今年も、吉林省総工会<団長 張洪偉(チャン ファンエイ)副主席を含め5人>を5月11日(水)～5月15日(日)の日程で招聘しました。

一行は5月12日(木)、京都市内を視察した後、来鳥されました。その後、ホテルモナーク鳥取で連合鳥取企画委員会メンバーとの意見交換を行いました。

冒頭、本川会長から訪日団の訪問に歓迎の意を表明し、「吉林省総工会のみなさんと連合鳥取の友情と連帯が一層強まることを願っている。」とあいさつしました。続いて、吉林省総工会を代表して張洪偉団長は「連合鳥取は労働界でも歴史ある労働組織である。今回の私たちの訪問を通じて、ぜひともみなさま方と勉強したいと思う。労働者の利益を擁護すること、また、連合鳥取の組合活動の経験を私たちの鏡にしてそれを勉強したい。本日の交流を大変楽しみにしてきました。」と述べられました。



歓迎あいさつする平井知事(左)

意見交換では、吉林省総工会から、①日本の労働組合の組合費の個人負担はどれくらいか、②会社からの補助はあるのか、③産別への負担割合はどれくらいか、④春闘について、経済が不景気の中で、組合員の希望とのバランスをとりながら、いかに現状に合わせた要求をつくっているか、などの質問がありました。また、連合鳥取からは、①連合鳥取では女性役員を3割選出することを目標としているがなかなか難しい。中国ではどのように選出しているか、②日本の公務員は労働三権が制約されているが、中国の公務員と民間人で「権利」の違いはあるか、などの質問が出されました。それぞれの担当局長が説明し、お互いの情勢認識を深めることができ、活発な意見交換の場となりました。



総連会長(左手前)

翌日は、知事公邸に平井伸治鳥取県知事を表敬訪問しました。平井知事は訪問団の5人を歓迎し、「鳥取県も連合鳥取と一緒に交流事業を継承し、ますます発展させていきたい。」と話しました。

また、連合本部も訪問し、神津里季生会長と懇談しました。両会は友好交流協定を締結して以来16年間、相互に信頼できる友好関係を確立し、交流促進に努めてきました。今後もこの大事な友好関係を大切にし、交流の継続と発展のため努力をしていきたいと考えています。

吉林省総工会とは——吉林省総工会は中華全国総工会の下部組織として吉林省を代表する組合であり、日本における連合鳥取と同様な組織である。主に福利増進と労使紛争防止の役割を持っており、吉林省各労働組合と産業労働組合の地方代表機関でもある。連合鳥取と吉林省総工会は、1999～2000年の交流協議・協定締結以来、東日本大震災に配慮し吉林省総工会が訪日を辞退した2011年を除き、毎年交互に交流訪問団を派遣・招へいし交流を深めている。

連合「女性のための全国一斉労働相談」

～STOP!セクハラ・パワハラ・マタハラ～ に8件の相談電話



連合は、6月の「連合男女平等月間」や国(厚生労働省)の「男女雇用機会均等月間」、「クラシノソコアゲ応援団! 2016RENGOキャンペーン」と連動した全国一斉の取り組みとして、5月19日(木)、20日(金)の2日間にわたり全国一斉労働相談キャンペーンを実施しました。

このようなキャンペーンは年3回実施され、連合鳥取では産別から派遣いただいた相談員と連合鳥取専従役員と一緒に相談対応にあたっています。相談者からは「女性相談員の方が話しやすい」との意見もあることから、「できれば女性の相談対応者の派遣を」と要請したところ、今回は4人の女性相談員を派遣いただきました。

初日の19日、NHK鳥取放送局のローカルニュース(昼・夕方)で取り上げられ、インタビューを受けた西條由紀さん(自治労)が「悩みを一人で抱えて心の病気になってしまうこともあるので、悩みが少しでもあれば電話をかけてほしい」と訴えたこともあり、放送直後からフリーダイヤルの電話がなっていました。相談者は男性・女性半々で、いずれも労働組合のない職場に勤めている人からで、うち5件は「パワハラ」「メンタルヘルス」にも通ずる相談でした。

仕事は生活の糧を得るだけではなく、仕事の達成感や培われた信頼関係、必要とされている自分を感じ、人生を充実し、自己実現を図っていく場でもあります。この大切な職場環境を守り、楽しくまじめに働くことができるよう、同じ職場で働く仲間やご家族、お友達の様子に気を配り、お互いに「メンタルヘルス」に陥ることを未然に防ぐよう心がけていきましょう。



西條相談員



森相談員

長屋相談員

太田相談員

—熊本県を中心とする九州地震— 連合ボランティア隊に参加

＜レポート／山田秀之副事務局長(第1陣ボランティア参加)＞

連合鳥取は、連合本部からの要請第1陣として、5月4日(水)から7日(土)まで、九州地震救援ボランティアの一員として参加しました。

第1陣は、初日に九州・中国・四国・近畿の各ブロックから29人が博多のJR九州労組事務所に結集し、バスで熊本県山鹿市のベースキャンプとなる「恵の里」に移動し、作業内の打ち合わせを行いました。

翌日から1時間以上の移動時間で「熊本市東区ボランティアセンター」へ行き、被災者からの要望に応える形で5人一組での作業を行いました。

当初の任務は「ボランティアセンターの運営」という要請でしたが、刻々と変わる状況に対応するため、急きょ、靴の中に鉄板の中敷を入れての現場作業に変更となりました。具体的には、被災された住宅の2階から大型家具を下に降ろし集積場所まで運搬をしたり、落ちた屋根瓦の片付け・運搬等を行いましたが、余震が続く中での作業と気温上昇による熱中症の心配は、「頑張ることと頑張り過ぎないこと」との葛藤の中での作業が印象的でした。

普段とは違う身体の使い方をし、膝・腰とも悲鳴が上がっていましたが、被災者のみなさんからの感謝の言葉と同じ班5人のチームワークで乗り切り、脱落することなく任務を終えることができ、とても良い経験となりました。



砂像をつくって繋がりを深める —青年委員会「産別交流会」に39人参加—

5月22日(日)、連合鳥取青年委員会は「産別交流会」として、砂像体験会を開催しました。

体験前にまず、「鳥取砂丘 砂の美術館」ガイドの安木さんによる解説で、砂の美術館を見学しました。地元とはいえ、初めて見学する参加者が多く、みな、砂像のすばらしさに感化されたようでした。

美術館の作品を見てイメージを膨らませたところで、実際に、砂像作成の体験に移りました。美術館スタッフの石飛さんと木村和久鳥取県議会議員の砂像作成指導のもと、小さなお子さんから大人まで楽しみながら作業を進めることができました。

今回は、グループごとに話し合って作成する砂像を決め、協力して一つの作品をつくりました。美術館で見学したプロの砂像作品をイメージしながらも、なかなか思い通りにはいきません。どのグループも苦戦しましたが、自分たちなりに知恵や意見を出し合って完成した砂像は、どのグループのものも確かに味わいが感じられるできとなりました。

共同作業の中で、普段関わりの少ない産別の参加者と会話が盛り上がり、一つの砂像を完成させたことで感性も刺激し合うことができました。

今後も、仲間の繋がりと刺激を大事に、魅力的な企画を開催したいと思いますので、積極的なご参加をよろしくお願いいたします。



(寄稿 青年委員会 幹事 松重光貴さん)

Information ※詳しくは、連合鳥取事務局へお問い合わせください。

第13回連合鳥取男女平等参画学習会

- 参加者募集中!** (産別事務局を通じて案内中)
- 日 時 6月18日(土)13時30分~16時30分(予定)
 - 場 所 まなびタウンとうはく (東伯郡琴浦町)
 - 内 容
 - ①講 演 「男女平等参画推進計画の取り組み、法改正の動向、第24回参議院議員選挙に向けた考え方」(仮)
 - 講 師 / 連合総合男女平等局長 井上久美枝さん
 - ②意見交換
 - ③産別取り組み事例報告 日教組・JR連合

連合 / 平和行動in広島

- 実 施 日 8月5日(金)~6日(土)
- 場 所 広島市
- 内 容 ①ピースウォーク ②連合2016平和ヒロシマ集会
- 募集人数 20人 ※献納のための「折り鶴」作成にご協力ください
- メ 切 日 6月20日(月)

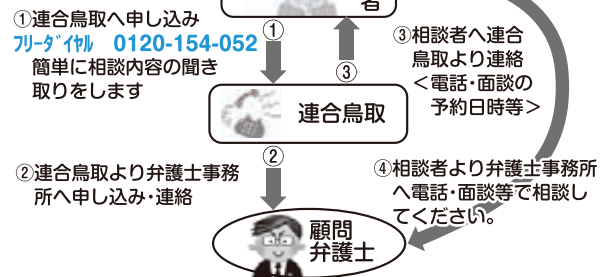
連合 / 平和行動in長崎

- 実 施 日 8月8日(月)~9日(火)
- 場 所 長崎市
- 内 容 ①連合2016平和ナガサキ集会 ②ピースウォーク
- 募集人数 5人
- メ 切 日 6月24日(金)

連合鳥取法律事務所(顧問弁護士)のご紹介

連合鳥取構成組織の組合員とご家族が利用できます

相談の流れ



注意 相談は無料

(ただし、具体的な調査・書類作成等、費用が発生することがあります)
 ・顧問弁護士がすでに相談者の争議相手と顧問契約を結んでいる場合など、相談や依頼を受けることができない場合があります。

〈顧問弁護士〉
 弁護士法人 河本・森法律事務所 / 河本充弘弁護士 森祥平弁護士

“ザ・議員”

棕田 昇一 鳥取市議会議員

2期目を迎えたこの1年余も、本会議での一般質問と質疑、委員会での議論、市民相談を通して、社会的弱者に光があたる政治に取り組んできました。

<主な取り組みの内容>

- ・市立病院非正規職員の育児休業制度
- ・グローバル人材育成事業の保護者負担軽減などを実現
- ・格差是正と生活困窮者支援を推進
- ・インクルーシブ教育の推進
- ・特別支援教育支援員を小中学校に必要な人数配置
- ・日常生活給付事業の拡大など障害者施策と共生社会の推進
- ・本人通知制度の更新手続きの廃止と無期限登録の実現
- ・海上自衛隊分遣隊基地の誘致断念表明の引き出しなど...

さて、参議院選挙が迫っています。安保法制廃止と立憲主義の回復、民主主義を守るために、幅広い共闘で勝利をめざしましょう!



中田 利幸 米子市議会議員

みなさまの取り組みに敬意を表しますとともに、日頃からのご理解、ご支援に心より感謝申し上げます。

さて、今、労働者に関する雇用ルールや、家族を含めた生活に関わる制度の大きな局面を迎えております。現在の政府・与党による政策の方向は、格差と自己責任を前提とした政策・制度に突き進んでおり、この流れは何としても変えていかなければなりません。

自治体では厳しい財政状況のもと、高齢社会と人口減少時代の福祉・子育て支援・雇用・経済の対策に頭を抱えており、その中で私は現在、都市生活機能の配置と交通政策を中心に取り組んでおります。

引き続きみなさまと共有する目標達成に努力する所存です。写真は、2015年熊本市で、①熊本城復元整備計画について、②地下水保全プランについて、③農観商工連携事業についての三項目の視察をした時のものです。

今、大変な事になっている熊本市の話題の中心となっている項目ですが、まさかこんな事になるとは…。一日も早い復興を願っています。



参議院議員選挙まで残すところ一カ月となった。この間、歴代政権が禁じてきた集団的自衛権の行使が時の内閣の解釈により容認され、また、労働関連法案の改悪など、民意を無視する安倍政権に暴走を許してきた。今こそノーを突きつける時である▼しかしながら、民進党への期待値は低水準にあることは事実であり、離合集散を繰り返し、党内ガバナンスが欠如しているとされてきた民主党の印象は払拭しきれない▼改選数は二二一議席。改憲賛成派が八六議席を確保すると、参議院において三分の二を確保することとなり、現在の一強時代が継続し、憲法改正や一層の格差拡大を許せば、国民生活の安心・安全は危うい▼民進党が民主党政時代の失敗を克服し、国民・有権者の信頼を得られ、二大政党の一翼を担い、る政党となることを期待する。



てんてんとらせ